

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

|                                |     |
|--------------------------------|-----|
| I. 理念に基づく運営                    | 項目数 |
| 1. 理念の共有                       | 11  |
| 2. 地域との支えあい                    | 2   |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用          | 1   |
| 4. 理念を実践するための体制                | 3   |
| 5. 人材の育成と支援                    | 3   |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援          | 2   |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応      | 1   |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援      | 1   |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント  | 6   |
| 1. 一人ひとりの把握                    | 1   |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 2   |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援              | 1   |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働    | 2   |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援      | 11  |
| 1. その人らしい暮らしの支援                | 9   |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり        | 2   |
| 合計                             | 30  |

|       |                  |
|-------|------------------|
| 事業所番号 | 2376500357       |
| 法人名   | 社会福祉法人 寿宝会       |
| 事業所名  | グループホーム輝楽苑       |
| 訪問調査日 | 平成 21 年 2 月 13 日 |
| 評価確定日 | 平成 21 年 3 月 31 日 |
| 評価機関名 | 福祉総合研究所株式会社      |

#### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 年 月 日

## 【評価実施概要】

|       |                                          |
|-------|------------------------------------------|
| 事業所番号 | 2376500357                               |
| 法人名   | 社会福祉法人 寿宝会                               |
| 事業所名  | グループホーム 輝楽苑                              |
| 所在地   | 愛知県豊川市御津町御馬浜田148番地<br>(電 話) 0533-77-1222 |

|       |                    |       |            |
|-------|--------------------|-------|------------|
| 評価機関名 | 福祉総合研究所株式会社        |       |            |
| 所在地   | 名古屋市千種区内山一丁目11番16号 |       |            |
| 訪問調査日 | 平成21年2月13日         | 評価確定日 | 平成21年3月31日 |

【情報提供票より】( 21年 1月 8日事業所記入)

### (1)組織概要

|       |                   |                               |      |
|-------|-------------------|-------------------------------|------|
| 開設年月日 | 平成 15 年 12 月 30 日 |                               |      |
| ユニット数 | 2 ユニット            | 利用定員数計                        | 18 人 |
| 職員数   | 13 人              | 常勤 8 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 10.93 人 |      |

### (2)建物概要

|      |             |
|------|-------------|
| 建物構造 | 木造 造り       |
|      | 1 階建ての 全階部分 |

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

|                     |              |   |                |         |  |
|---------------------|--------------|---|----------------|---------|--|
| 家賃(平均月額)            | 38,200円      |   | その他の経費(月額)     | 44,800円 |  |
| 敷金                  | 無            |   |                |         |  |
| 保証金の有無<br>(入居一時金含む) | 有( 300.000円) |   | 有りの場合<br>償却の有無 | 無       |  |
| 食材料費                | 朝食           | 円 | 昼食             | 円       |  |
|                     | 夕食           | 円 | おやつ            | 円       |  |
|                     | または1日当たり     |   | 1100           | 円       |  |

### (4)利用者の概要( 12 月 1 日現在)

|       |           |         |         |    |      |
|-------|-----------|---------|---------|----|------|
| 利用者人数 | 18 名      | 男性      | 2 名     | 女性 | 16 名 |
| 要介護1  | 6 名       | 要介護2    | 3 名     |    |      |
| 要介護3  | 5 名       | 要介護4    | 2 名     |    |      |
| 要介護5  | 2 名       | 要支援2    | 0 名     |    |      |
| 年齢    | 平均 85.5 歳 | 最低 73 歳 | 最高 97 歳 |    |      |

### (5)協力医療機関

|         |                             |
|---------|-----------------------------|
| 協力医療機関名 | ユリクリニック、たけもとクリニック、可知病院、今泉歯科 |
|---------|-----------------------------|

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平屋建て2ユニットのホームである。リビングは自然光が差し込む明るい環境で、利用者が思い思いに過ごしている。また、各ユニットからつながる中庭は、花を育てたり、外気浴もできる居心地のよい場所である。利用者・職員が共に毎日を大切に生きようというホームの理念の実現を目指して、身体面だけではなく、精神面に目を向けたケアプランを挙げ、利用者に生き活きと過ごしてほしいと願っている。そのためにも利用者の想いや自己表現を最大限に引き出す支援を勧めている。法人内の勉強会も充実しており、外部研修とあわせ職員の育成を行なっている。利用者家族との交流会も開催され、家族の意見を聴く姿勢がある。職員のアイデアを活かした楽しい行事も多く、積極的に地域の人々と交流を図っている。協力医との連携は良好である。

## 【重点項目への取り組み状況】

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 重点項目① | <p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善点である水分摂取量の記録については、一日の食事・水分摂取量・体重・バイタルサインを一つにまとめ、体調の変化が一目で分かるように記録されている。また、職員が向上心を持ち仕事に取り組めるように、研修への参加や、意見・企画を採用し、新しいイベントにも取り組んでいる。理念については、全職員が意識を高め取り組めるように指導を行い、災害時の地域との連携は、今後の課題としている。</p>                                                    |
|       | <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員は評価の意義を理解し、自己評価を全職員で行い、意見を出し合ってサービスの質の向上に努めている。</p>                                                                                                                                                                                                         |
| 重点項目② | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に一回開催されている。出席者は利用者の家族、民生委員、地域包括支援センターの職員および当事業所職員である。ホームの活動状況や取り組み内容を報告し、意見交換を行い、そこでの意見は反映できるよう話し合いをしている。そこでの意見の一つとして、認知症の症状や対応方法についての事が出たので、管理者は認知症のキャバインメイト養成講座に出席して、勉強会を行い、地域の人に認知症に対する理解をしてもらい、認知症サポーターを増やしていく活動を行っていく予定である。</p> |
| 重点項目③ | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月「おきらく新聞」や法人の新聞と共に、担当者からの手紙と写真を付け送付している。利用者の健康状態や金銭報告もその際行っている。家族の面会時にも普段の様子を伝える様に、話しやすい関係づくりがされている。意見箱を玄関に設置しているが、直接話をしてくれる家族が多い。苦情、要望については職員で話し合い、検討して運営に反映させている。</p>                                                                            |
| 重点項目④ | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の環境におけるクリーン運動として、ホームの周りを利用者と清掃を行い、海岸清掃には年2回職員が参加している。今年は職員の声で地域交流会を行った。チラシ配りや回覧板で回し多くの人に参加してもらい、ホームで暮らす利用者への理解が深まった。夏には青少年ボランティアを受け入れたり、夏場所の力士訪問時には、幼稚園児も招待し、交流を図っている。</p>                                                                                     |

## 2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

| 外部                 | 自己 | 項 目                                                                                     | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                                                       | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)          |
|--------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------------------------------|
| <b>I. 理念に基づく運営</b> |    |                                                                                         |                                                                                                                                                       |      |                                           |
| 1. 理念と共有           |    |                                                                                         |                                                                                                                                                       |      |                                           |
| 1                  | 1  | ○地域密着型サービスとしての理念<br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている                  | 「共に生きる仲間。旅立ちの日まで真心込めて 今日一日に想いを込めて」をホーム独自の理念として掲げ、地域とのつながりや、人と人とのつながりを大切にし、心を込めて日々取り組んでいる。                                                             |      |                                           |
| 2                  | 2  | ○理念の共有と日々の取り組み<br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる                                     | ホームの理念は、利用者が達筆に書き上げ、玄関や各フロアの見やすい位置に掲示されている。また、理念を常に意識するようにミーティング時に話し合い、日々のケアの中で指導している。                                                                | ○    | 全職員がホームの理念を理解し、理念の実践に向けて意識を高め、取り組む事を期待する。 |
| 2. 地域との支えあい        |    |                                                                                         |                                                                                                                                                       |      |                                           |
| 3                  | 5  | ○地域とのつきあい<br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている               | 地域のクリーン運動として、ホームの周りを利用者と清掃を行い、海岸清掃には職員が年2回参加している。町内の夏祭りには利用者也参加している。また10月には職員の声から始まった「地域交流会」が実施され、地域の人や保育園の園児を招待し、交流を図る事が出来た。夏には青少年のボランティア体験も受け入れている。 |      |                                           |
| 4                  | 7  | ○評価の意義の理解と活用<br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる                 | 自己評価および外部評価の意義を理解し、自己評価を全職員で実施している。改善点については、職員が意見を出し合い改善がされている。災害時の地域との協力体制については、今後の課題としている。                                                          |      |                                           |
| 5                  | 8  | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に一回開催されている。参加者は利用者家族、地域包括支援センターの職員や民生委員である。ホームの活動状況や取り組み内容を報告し、意見交換を行い、ホームや利用者への関心・理解を深めてもらうよう努めている。                                               |      |                                           |

| 外部              | 自己 | 項 目                                                                                                  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                                                            | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|----------------------------------|
| 6               | 9  | ○市町村との連携<br>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる                               | 地域包括支援センターの職員には、運営推進会議に参加してもらい、ホームの状況等を理解してもらっている。また分からない事や困った時には、市町村担当者と相談している。市の連絡協議会にも出席し、情報を得てサービス向上に努めている。                                            |      |                                  |
| 4. 理念を実践するための体制 |    |                                                                                                      |                                                                                                                                                            |      |                                  |
| 7               | 14 | ○家族等への報告<br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている                              | 毎月ホームの「おきらく新聞」と法人の新聞と共に、担当者が手紙を書いて写真と一緒に利用者の普段の暮らしぶりを報告している。また、新採用の職員についてはホームの新聞で紹介している。家族の来訪時には日々の様子を伝え、また、必要に応じて電話連絡や報告を行っている。金銭の出納については毎月報告し、承認を得ている。   |      |                                  |
| 8               | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映<br>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                                | 職員は普段から話しやすい環境作りを心掛け、家族の来訪時には必ず声をかけ、話を聴くようにしている。家族からのクレームや希望は記録に残し、職員で話し合い、検討して運営に反映させている。また、家族交流会を開き、利用者と一緒に過ごしてもらい、家族同士が話をする機会を設けている。                    |      |                                  |
| 9               | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮<br>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員は各ユニット毎に固定し、異動は最小限に抑えるよう努めている。また、利用者の担当を決め信頼関係も築かれている。各ユニットの固定ではあるが、利用者は各フロアを行き来しており、利用者と職員は全員が良い関係を築いている。離職者については利用者の状況を見て退職したことを伝えている。                 |      |                                  |
| 5. 人材の育成と支援     |    |                                                                                                      |                                                                                                                                                            |      |                                  |
| 10              | 19 | ○職員を育てる取り組み<br>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている              | 研修プログラムがあり、全職員が経験年数や力量に応じて順番に研修に参加できるように計画されている。法人内の勉強会は月に一回実施され、外部研修と合わせて毎月2名程参加している。研修内容は報告書にまとめ、他の職員にも伝える機会を設けている。また、管理者は職員が自分で気付いて行動ができる力をつけるよう指導している。 |      |                                  |
| 11              | 20 | ○同業者との交流を通じた向上<br>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている    | 管理者は市の連絡協議会に出席し、情報交換をしている。また、法人内グループホーム会議では、グループ内の問題等が話し合われ、地域交流会の際には、他ホームの職員がボランティアで参加している。また職員も個々に研修に参加し、交流を持ち、施設見学に行ったりとよりよいサービス向上に努めている。               |      |                                  |

| 外部                                 | 自己 | 項 目                                                                                                        | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                         | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|----------------------------------|
| <b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>         |    |                                                                                                            |                                                                                                                         |      |                                  |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応          |    |                                                                                                            |                                                                                                                         |      |                                  |
| 12                                 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用<br><br>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 本人や家族がホームを見学し、雰囲気や様子を見て、納得して入居してもらうようにしている。入居後は、利用者の不安な気持ちを受け止められるように、じっくりと向き合い、話を聴き、行動を共にしながら、利用者と職員相互の理解を深めるよう心掛けている。 |      |                                  |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援          |    |                                                                                                            |                                                                                                                         |      |                                  |
| 13                                 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br><br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている                       | 利用者は調理や洗濯、掃除等を職員と一緒に言い、共に助け合いながら生活している。また、職員はその人その人に合う話しかけをしたり、関わり方を心掛けており、利用者が穏やかに過ごし、笑顔を見せてくれる事が一番の励みになると話している。       |      |                                  |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |    |                                                                                                            |                                                                                                                         |      |                                  |
| 1. 一人ひとりの把握                        |    |                                                                                                            |                                                                                                                         |      |                                  |
| 14                                 | 33 | ○思いや意向の把握<br><br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している                                           | 日々の関わりの中で、表情や行動・言葉等から、思いを把握するよう努めている。職員がそれぞれ得た情報は、家族からの情報と共に個別に記録し、全職員が把握できるようにしている。                                    |      |                                  |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し     |    |                                                                                                            |                                                                                                                         |      |                                  |
| 15                                 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画<br><br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している        | 本人や家族の意見と主治医のアドバイスを基に話し合い、身体面だけでなく、精神面のケアを大切にしたい具体的な介護計画を作成している。                                                        |      |                                  |
| 16                                 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し<br><br>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している    | 基本的には3ヶ月毎にカンファレンスを行い、見直しを行っている。職員は利用者の状況や状態変化を記録し、小さな変化を見逃さないようにしており、状態変化や、本人・家族の要望や主治医その他関係者の意見に応じて随時ケアプランの見直しをしている。   |      |                                  |

| 外部                                     | 自己 | 項 目                                                                                         | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                                                   | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)                                       |
|----------------------------------------|----|---------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|------------------------------------------------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用) |    |                                                                                             |                                                                                                                                                   |      |                                                                        |
| 17                                     | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援<br>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている                             | 本人や家族の状況に応じて、通院時の送迎や買物・理美容院への外出支援等を柔軟に対応している。また、多機能性を活かしたサービスとしてショートステイも可能である。加えて、協力医とは24時間連絡が可能であり、医療連携体制が整っている。                                 |      |                                                                        |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働            |    |                                                                                             |                                                                                                                                                   |      |                                                                        |
| 18                                     | 43 | ○かかりつけ医の受診支援<br>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している              | 2週間に1度の協力医の往診があり、日常の健康管理や、夜間及び緊急時の対応についても、相談・指導を受けている。また、入居前からのかかりつけ医の受診を希望する利用者は、家族の状況に応じて職員が付き添い受診している。                                         |      |                                                                        |
| 19                                     | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有<br>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 入居時にホームで対応できるケアについて説明し、事前指定書を書いてもらい、意思確認をしている。また、終末期を迎えた時点で、本人や家族・協力医と話し合い方針を共有している。                                                              |      |                                                                        |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援              |    |                                                                                             |                                                                                                                                                   |      |                                                                        |
| 1. その人らしい暮らしの支援                        |    |                                                                                             |                                                                                                                                                   |      |                                                                        |
| (1)一人ひとりの尊重                            |    |                                                                                             |                                                                                                                                                   |      |                                                                        |
| 20                                     | 50 | ○プライバシーの確保の徹底<br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない                          | 職員は日々の関わりの中で、利用者の誇りやプライバシーを損ねることがないように心掛けている。年に2回言葉遣いについてチェックを行い、自己の振り返りや見直しを行っている。また、管理者は心のこもった言葉かけができるよう指導している。掲示物等は、家族の同意を得るなど、個人情報の保護に留意している。 |      |                                                                        |
| 21                                     | 52 | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している            | 利用者それぞれの生活のリズムを把握して、その時の利用者の希望にそった過ごし方が出来るように心掛けている。利用者の画一的な対応をさけ、個別に対応していけるよう取り組む姿勢である。                                                          | ○    | グループホームとしての特性を踏まえ、職員の都合を優先することなく、一人ひとりと向き合ったケアの実現に向けて、全職員で取り組むことを期待する。 |

| 外部                            | 自己 | 項 目                                                                             | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                                                                | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)                                                                         |
|-------------------------------|----|---------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 |    |                                                                                 |                                                                                                                                                                |      |                                                                                                          |
| 22                            | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている    | 朝・夕食は、法人内の配食サービスを利用し、昼食は届けられた食材を、利用者と一緒に工夫しながら調理している。また、盛り付けや片付け等、利用者ができることを一緒に行っている。職員は利用者のサポートをしながら、楽しく食事ができるよう支援している。                                       | ○    | 利用者の起床時間によっては、朝食の時間が待ち遠しいこともある。臨機応変な対応を期待したい。                                                            |
| 23                            | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援<br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している   | 毎日午前10時から午後4時頃に、利用者の希望や体調に応じ入浴してもらっている。入浴を拒む利用者には、タイミングや声のかけ方を工夫し入浴してもらえるよう努力している。介助が必要な利用者には、状況によっては職員の都合に合わせて入浴してもらうこともある。                                   |      |                                                                                                          |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 |    |                                                                                 |                                                                                                                                                                |      |                                                                                                          |
| 24                            | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 家事やそれぞれの得意分野を把握しておいて、それとなく利用者が自信を持って参加できるような誘いかけをするように心掛けている。慣れた手つきで洗濯物をたたんだり、入居したばかりの利用者の様子を気遣う姿が見られる。また、ホームの理念を利用者が達筆に書き上げており、他の作品も誇らしげに見せてくれた。季節毎の行事も工夫がある。 |      |                                                                                                          |
| 25                            | 61 | ○日常的な外出支援<br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している                   | 利用者が外出したい時に出掛けられるよう支援している。職員と一緒に散歩に出掛けたり、一人で買物に出掛けたい利用者には、危険がないようにこっそり後から見守りをしている。外食や喫茶店への外出も大好きな利用者が多い。また、電車での外出や水族館・花見等それぞれが興味があるものに参加してもらっている。              |      |                                                                                                          |
| (4) 安心と安全を支える支援               |    |                                                                                 |                                                                                                                                                                |      |                                                                                                          |
| 26                            | 66 | ○鍵をかけないケアの実践<br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる          | 玄関を通るとチャイムが鳴るようになっており、朝7時から夜9時までは玄関に鍵をかけていない。職員は、利用者の行動や雰囲気から、利用者の想いを理解するように心掛け、見守りや外出支援により、鍵をかけないケアに取り組んでいる。                                                  |      |                                                                                                          |
| 27                            | 71 | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている     | 防災マニュアルに基づき、年2回消防署の協力を得て昼間と夜間を想定した防災訓練を実施している。職員は訓練での問題点や避難方法を話し合い、それらを活かせるよう取り組んでいる。また、運営推進会議で地域の人々の協力をお願いしている。                                               | ○    | 近隣の人々のホームへの理解は深まりつつあり、また、運営推進会議参加者にも協力を呼びかけている。地域の人々に訓練に参加してもらうことにより、具体的に協力の内容や連携方法についての話し合いができることを期待する。 |

| 外部                        | 自己 | 項 目                                                                                                       | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                                            | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)                |
|---------------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 |    |                                                                                                           |                                                                                                                                            |      |                                                 |
| 28                        | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている                                   | 一日の食事・水分摂取量は記録され、全職員が把握できるようにしている。おかゆや刻み食等、利用者の状態に合わせ食べやすいように工夫されている。また、週1回体重測定を行い、体重の増減から、病気や体調変化等の早期発見に努め、健康状態が維持できるように支援している。           |      |                                                 |
| v<br>(1)居心地のよい環境づくり       |    |                                                                                                           |                                                                                                                                            |      |                                                 |
| 29                        | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | リビングには畳のスペースがあり、利用者の写真や書道等の作品が飾られている。食事時には食欲をそそる匂いがしたり、中庭を眺めると、洗濯物や花壇に植えられた花々が、家庭的な雰囲気を醸しだしている。訪問当日は、いつでも入浴できるように浴室の準備がされていたが、脱衣所が散らかっていた。 | ○    | 利用者が、気持ち良く安全に入浴できるように、脱衣所の室温や整理整頓、環境整備にも留意が欲しい。 |
| 30                        | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている                   | 居室にはベッドや洗面台が設置され、使い慣れたタンスやこたつ・テレビ・小物が持ち込まれ、写真等も飾られている。居心地の良い、思い思いの部屋になっている。                                                                |      |                                                 |